

令和6年度第3号会報発行にあたり

全国の防災エキスパート(高速道路サポーター)会員の皆さま、日々の活動お疲れ様です。また本会報をお読みいただいている皆さま、今後も防災エキスパート活動にご理解とご協力をお願いいたします。

今号は、中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)木村様にメッセージを頂きました。

本会報を最後までお読みいただき、防災エキスパートについてより理解を深めていただければ幸いです。

(事務局本部)

「大規模災害に備えた 防災・レジリエンス強化」

防災エキスパート運営連絡会委員

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)
取締役 経営企画部長 木村秀之 氏

平素より、防災エキスパート会員の皆様並びに関係者の皆様には、高速道路事業に関しまして多大なるご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

昨年の令和6年1月1日(月)に発生いたしました能登半島地震から早一年が経過いたしました。また、同年9月には奥能登豪雨により甚大な被害がもたらされ、多くの方々が被害を受けられました。亡くなられた方々へ謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われました全ての皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

令和6年12月には能登半島でのボランティア活動を希望する弊社社員が「被災地ボランティア活動の支援制度」を利用させていただき、石川県珠洲市で12日間、延べ約170名がボランティア活動に従事いたしました。参加した社員は、被災地の状況を目の当たりにし、地震及び水害の甚大さや復興の難しさを身をもって体感した次第でございます。あらためまして活動に参加された皆さま、調整いただいた事務局の皆様、大変ありがとうございました。



また、令和6年8月には南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表され、弊社におきましても防災体制を構築いたしました。政府からの特別な注意喚起は終了いたしましたでしたが、大規模地震の可能性がなくなったわけではなく、今後発生し得る災害に備えるため、より一層防災・レ



ジリエンスを強化する必要性を認識いたしております。

弊社では防災・レジリエンス強化の一環として、今年度の防災訓練より「First Mission Box」(考案:長野県飯田市、(一社)危機管理教育研究所理事長 国崎信江氏)を導入いたしました。



地震発災時においては、拠点に参集した防災体制要員が迅速に防災対策本部を立ち上げ、初動対応を実施する必要があります。しかしながら、実際の発災時には計画通りの防災体制要員が参集できないことが予想されるため、この際に「First Mission Box」に格納されているアクションカードに従い行動することで、防災業務の熟度によらず、誰でも円滑に初動対応が可能となるものと考えております。

今後は「First Mission Box」を活用した防災訓練を多数の社員に経験させ、各個人の防災意識の向上を図るとともに、更なる強化を行って参る所存でございます。

現代社会において、自然災害が頻発する中、防災対応能力の強化が必要であり、防災エキスパート(高速道路サポーター)の皆様の培ってこられた貴重な知識や経験を次の世代に伝承していくことが必要であると考えております。

今後、支部活動の中でも、知識や経験の伝承を含め対応能力の強化に注力する所存でございますので、会員の皆さまにおかれましても引き続きご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

報告

支部活動状況

令和6年11月～令和7年1月に報告があった支部の活動状況について情報共有します。

北海道支部

活動名	保全計画検討会
実施日	令和6年11月14日(月)
場所	北海道支社
【内容】	東日本高速道路(株)北海道支社主催の保全計画検討会議に参加
【参加者】	一般会員:1名

関東支部

活動名	地域災害対策連絡会
実施日	令和6年12月9日(月)
場所	水戸管理事務所
【内容】	令和6年度 水戸管理事務所地域災害対策連絡会 会長挨拶 地域災害対策連絡会規約について 地域災害対策連絡会事務局報告 応急復旧業務計画(災害協力会社)
【参加者】	一般会員:1名

東京・八王子支部

活動名	支部会議
実施日	令和6年12月6日(金)
場所	エンジ東京本社
【内容】	防災エキスパート活動について 東京・八王子支部の活動について 能登半島地震における高速道路の対応と地域支援活動について 地域支援活動を通じて感じたこと 災害時におけるトイレカーの活用について ドローンを使用した震災時の橋梁点検と衛星通信による動画配信
【参加者】	一般会員 15名、グループ会員 20名、エンジ東京社員 7名、 高速道路調査会 2名 NEXCO中日本 3名、メンテ東名・中央 2名 外部講師 1名 計50名



関西支部

活動名	技術伝承(アーカイブプロジェクト)活動定例会
実施日	令和6年11月21日(木) 12月20日(木) 令和7年1月21日(火)
場所	茨木技術研修センター(1-TR)
【内容】	①ふらっとアーカイブ記事②R7防災講演会準備、③出前講座、他
【参加者】	11/17一般会員:9名 グループ会員:1名 12/20一般会員:5名 グループ会員:2名 1/21一般会員:10名 グループ会員:2名



:防災エキスパート会員専用ページに資料を掲載しています。
https://bousai.express-highway.or.jp/member_login.php

報告

高速道路エキスパート会員数

各事務局支部の会員数について報告します。

防災エキスパート会員数

令和6年12月1日時点

支部名 会員数	北海道	東北	関東	新潟	八王子・東京	名古屋・金沢	関西	中国	四国	九州	合計
一般会員	8	37	45	8	47	38	59	10	21	38	311
グループ会員	33	22	9	28	25	14	38	20	49	69	307
計	41	59	54	36	72	52	97	30	70	107	618

一般会員：グループ会員以外の会員 / グループ会員：NEXCOグループ会社の会員

情報共有

令和6年度活動実績

令和6年度の各支部における12月までの活動実績と1～3月の計画です。

各支部におかれましては、今後の活動計画を立案される際に、「防災会員専用ページ」や本会報で他支部の活動も確認できますのでご参考ください。

令和6年度 防災エキスパート活動状況

令和6年12月時点

項目	令和6年度												備考
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
北海道			調⇒中止		訓	訓⇒8月	講・支	点	点⇒11月	調	調		
東北	点				訓						支・講		
関東	点					訓・支	他		研				研：水戸地域災害連絡会
新潟	点	点	支・講		訓	訓⇒8月							
東京・八王子	点	他	他⇒延期			訓	他		支				他：現場見学会等
名古屋・金沢	【ボ】	【ボ】		【ボ】	【ボ】	訓・講・【ボ】	支・講・ボ	ボ	ボ・研				
関西	調・他	調・出・他	調・支・講・他	調・他	調・他	訓・調・他	調・他	調・出	調・他	調	調・他	調	調：アーカイブ定例会 他：アーカイブ取材、記事寄稿等
中国		訓		研	支⇒中止	訓⇒中止							調：時期未定(年1回)
四国		調⇒延期	調		調・出⇒中止	訓	支・講・訓・他				講	調	他：つなぎの森四国大豊町2022への参加
九州	点・調	講⇒調	講	出⇒中止	調⇒中止							支・点	

凡例

【支】支部会議、
【出】出前講座、技術講習会
【点】基本点検(会議等含む)
【研】講演会等の参加、
【災】災害支援、
【ボ】被災地ボランティア活動

【講】講演会(支部主催・共催)、
【訓】防災訓練
【調】連絡調整会議等
【他】その他

実施済み

赤字：会員専用サイトに資料を掲載しております。

令和3年度より、「防災エキスパート」会員以外の被災地ボランティア活動へ支援をしています。

防災意識・スキル向上のための被災地ボランティア活動の支援制度

- 将来の高速道路サポーターとなる高速道路会社社員のあなた、
高速道路会社のグループ会社社員のあなたが対象です。
- 旅費交通費・宿泊費等を支援します。

- 【対象者】 高速道路会社の社員、高速道路会社グループ会社の社員
- 【どういう場所】 安全が確保されている活動の場であること
例) 活動の場である被災地にて行政・現地福祉事務所や災害ボランティアセンター等が運営するボランティアセンターが設置運営されていてその団体がボランティアを募集していること
- 【活動区分】 独自で行うもの
支部等が企画したボランティア活動に参加するもの
- 【手続き方法】 ボランティア活動実施に伴う事前手続きについては、高速道路調査会ウェブサイトをご覧ください。
※申込みは、事務局各支部の窓口まで

報告

石川県能登半島における被災地ボランティア活動

被災地ボランティア活動の支援制度を活用した活動報告

NEXCO中日本 御殿場保全サービスセンター 山田様が11/29～12/5に石川県能登半島ボランティア活動に参加されました。(抜粋)

【報告】石川県能登豪雨災害における災害ボランティア活動

2024年12月9日
御殿場(保)



能登半島地震の被災地が再び豪雨被害を受け、石川県で15人が亡くなった9/21豪雨災害から2か月半が経過しました。いまでも多くの住宅に土砂などが流れ込んだままです。年末を迎え少しでも復興支援を加速すべく、防災エキスパート制度を活用して、被災地の支援活動を実施したのもの。

- 実施日 令和6年11月29(金)～12月5日(木) 9時～16時 (7日間)
- 活動場所 輪島市町野ボランティアセンター、輪島市ポートパークボランティアセンター
輪島市門前ボランティアセンター、民間災害ボランティアセンター「おらっちゃ七尾」
- 活動内容 被災者の支援活動 (輪島市・七尾市)
- 参加者 NEXCO中日本 御殿場HSC 1名
- 活動の流れ:①→②→③→①

① ご参加いただける方法

②

③

① 県ボラバス
金沢駅・石川県庁発



石川県庁前集合・受付
→大型バス6:45出発



災害ボランティアセンター9:30到着
→全員オリエンテーションへ



支援者と活動内容のマッチング
→資機材を積んで現地へ出発・活動

豪雨災害被災地は、『公費による住宅解体』が始まったばかり。黒瓦屋根をブルーシート補修した住宅に住み続けていた。輪島市&七尾市はまだ手付かずの状況である。被災地の小学生を含む多くの子供たちは、年末を迎えるにあたり「アニバーサリー反応(節目反応)」が蘇り、新しい年が迎えられるのか不安を抱えている。お客さまの心に寄り添った広報活動等はいつでも始められる支援である。

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋㈱ の皆様が12/3～12/20に延べ170名の方が、石川県能登半島ボランティア活動に参加されました。(抜粋)

能登半島地震災害支援

現地活動状況【12月3日(火)】

活動場所: 珠州市大谷町



A班 1日目(15名)

主な作業内容: 泥出し

《活動状況写真》



《活動内容》

家屋外に流れ込んだ土砂を撤去(機械で作業できない部分を人力にて作業)
土砂受け入れ先が休みのため、土嚢袋にて対応

能登半島地震災害支援

現地活動状況【12月19日(木)】

活動場所: 珠州市若山町・三崎町



F班 1日目(18名)

主な作業内容: 瓦搬出、土嚢作成・設置、土砂搬出

《活動状況写真》



《活動内容》

- ・2班に分かれて活動(①12名、②6名)
- ・被災した家屋の瓦を仮置き場へ搬出
- ・田んぼ内に流入した土砂を土嚢袋に詰めて仮置き場へ搬出

石川県能登半島における被災地ボランティア活動

被災地ボランティア活動の支援制度を活用した活動報告

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)の皆様が12/3～12/20に延べ170名の方が、石川県能登半島ボランティア活動に参加されました。(意見抜粋)

令和6年度 災害ボランティア活動報告 意見抜粋

○現地で感じたこと

・人々の生活において飲食以外にも大事な点が多く特にトイレ・入浴・洗濯等についてはストレスを軽減させる

・実際に被災地の現状を目の当たりにして肌で感じたのは、メディアやSNSを通じて知る現状とは違いまだまだ多方面において多くの支援が必要であると感じました。

・「道」は何をするにしても大事な生活ツールであり、高速道路もインフラを担う重要な活路であると再認識した

・地域性にもよるが、能登のような高齢地域は、避難者が被災地へ戻ってくることが困難なため、ニーズは大量に存在するが、立会者が不在である場合が多く、なかなか片付けが進まない。

・現地でしか感じられないものがあり、自分の目で被災状況を確認することで防災の重要性を再認識した。

・ボランティアセンターでは、安全を最優先とした活動の声掛けをしてくれ、工程的にも無理のない活動ができた。

・現地に行くまでは、人力(ボランティア)による作業には限界があり、重機などお金をかけて一気に作業を行うべきなのでは。と思うこともあったが、実際に行ってみて重機だけではなく、人力(ボランティア)による作業もまだまだ必要であると感じた

・ほぼ初対面の方々との活動で、1つのチームとして円滑に活動できた
・比較的年長の方は明確に指示し、その他の方は指示に従って精力的に作業していた
・これまでこういった作業の経験がなく、作業の段取りから中々うまくできなかったが、ボランティアを事前に経験していたとしたら、もっとスムーズに作業出来たと感じた
・ボランティア団体への指示が行き届いていると感じました。地図と写真付きの資料を交えながら、明確にどこで何をするのか言っていたので、土地勘の無い私たちも活動がしやすかった。

・被災した現状・被災された方の悲しみを直接目にすることは、自身の防災意識の変化につながった。現地の方や被災された方から当時の話を直接聞いたことで、災害に対する備えや防災への意識が高まったこと。

・災害ボランティアに参加することで自部自身の防災意識の向上や広い視点で防災を考える機会になると感じた。

・現地の団体の方から説明を聞くだけでは、避難者からの細かな要望や質問に十分答えられない場面があった。
配布事業の概要や質問された場合の受け答えなど可能な限り、事前に把握できるものはしておくことが大事だと感じた。
・お客様対応の際に、“現在の状況”や“通行止め解消見込み”など最新の情報を把握し、受け答えがスムーズにできるようにしたい。

・「津波の報道が出たため車で避難しようとしたが、渋滞してしまい動けなかった」と聞いた。
発災時における高速道路の緊急点検や復旧作業のため社員が会社拠点に向かう際に避難者の交通混雑に巻き込まれ出社できないリスクがあるため、あらかじめ居住地やルートを考慮した人選をするなどの準備が必要だと改めて感じた。
・発災時の高速道路における活動者は固定できず経験の浅い若手社員のみとなる場合もあるため、誰でも的確な活動が行えるよう、BCPの整備や事前の被災想定に基づく活動計画整備、訓練の必要性を再認識した。

・震災直後から様々な支援活動を行ってきたNPO法人は、地元から強い信頼を得ていると感じた。話を聞くと、活動当初は不信感を持たれたり、反対があったりしたとのこと。現地に寄り添った活動を主体的に継続する姿勢は、当社の支援活動においても見習うべきことが多く、今後の激甚災害を見据えて災害支援に関するプロからの講演や講習を開催すると良いと感じた。

・高速道路関連事業の分野においては、宿泊施設や温浴施設等を地域に開放できる防災拠点としての整備や非常時における地域連携や協定締結に取り組んで行くことが重要

石川県能登半島における被災地ボランティア活動

被災地ボランティア活動の支援制度を活用した活動報告

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋㈱ の皆様が12/3～12/20に延べ170名の方が、石川県能登半島ボランティア活動に参加されました。（意見抜粋）

○被害状況や復旧状況を見て感じたこと

- ・ [能登半島の地震では橋梁等構造物よりも土構造物（盛土）のほうが多く被災](#)していた。
- ・ [リアルな構造物（道路や建物）の破壊形態](#)を学ぶことができる。
- ・ [橋梁や土工、建築物のリアルな破壊形態](#)を見て、[災害を想定](#)し、[考えるきっかけ](#)となった。
- ・ [防災に対する意識が強くなった](#)。
- ・ [被災した道路構造物やのり面等を実際に見ることで、どのような被害が発生するかある程度想像](#)することができる
- ・ [被災した場合の一次復旧方法も見ることができた](#)ため、[復旧方法が提案](#)できるようになった。
- ・ [能登半島地震の盛土崩壊原因を注視](#)していく
- ・ [橋梁と土工部の境目に段差](#)があり、[仮復旧するための土嚢や砕石、舗装が必要](#)となることから、[防災用資材](#)のひとつとして保有を検討する
- ・ [通行規制解除状況の変遷は、被災から復興にかけてのタイムライン作成等の場面において、役に立つ](#)
- ・ [通行規制状況を情報板やハイウェイラジオで情報提供](#)しており、その[手法や内容を確認・参考とする](#)
- ・ [路肩に停止している車両を3台見かけ、道路が災害復旧の段階にあっても、路肩や避難駐車帯](#)は可能な限り確保しなければならないと感じた

○災害ボランティア活動に対する意見

- ・ [被災地ボランティア活動制度の補助により、非常に参加しやすい環境](#)であった。
- ・ [本制度に関して、高速道路調査会を利用できたことで費用的には助かる。](#)
- ・ [割れたガラスや瓦はケガのリスクが高い](#)ため、[適切な防護具や処理方法](#)が必要でした。[保護メガネや防刃グローブの装着](#)をするよう声掛けをした。
- ・ [片付けの時間帯が真っ暗](#)であり、その[安全対策に改善の余地](#)があった。
- ・ 北陸道の[災害支援車両及びボランティア活動の高速道路通行証明書の発行は、着実に浸透](#)し多くの石川県ボラスタッフの声掛けで確認できた。
- ・ [ボランティア活動を行うために必要な手続きや高速道路が無料](#)になる等の制度を知れた。



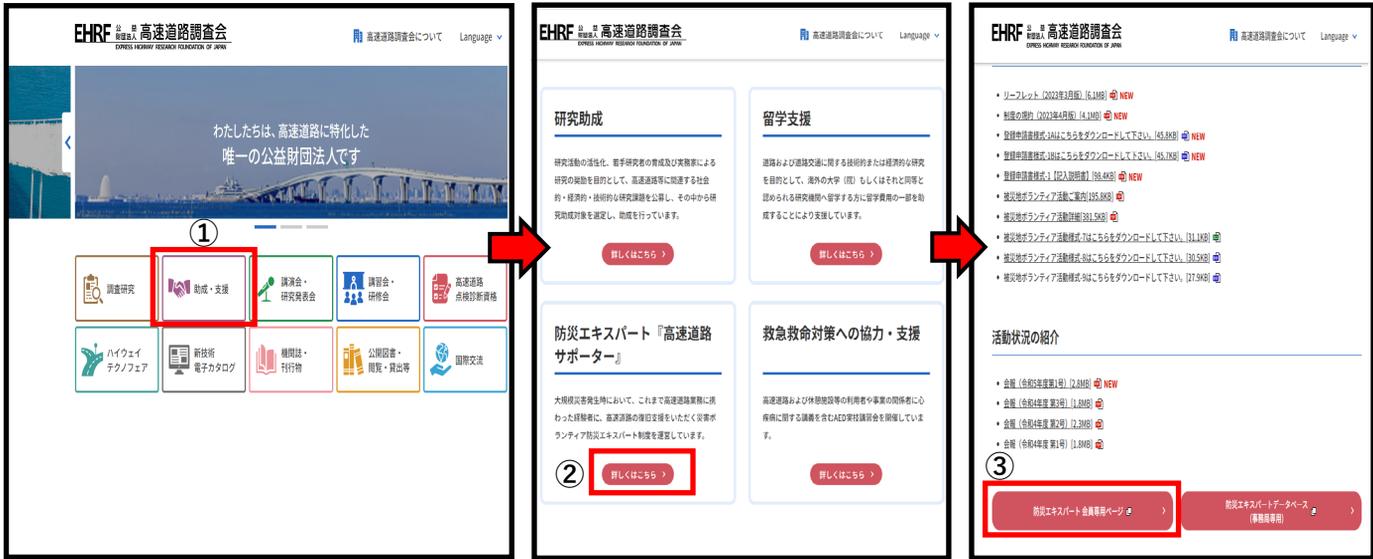
情報共有

防災エキスパート会員専用ページをご活用ください

「防災エキスパート」活動の情報共有に会員専用ページをご活用ください。

会員の利用にあたっては、IDとパスワードによる認証が必要となります。

未登録の方は、利用マニュアルが各支部にありますので、お問い合わせください。



求む!

防災エキスパート会員「講演会説明資料」等のご提供に関するお願い

防災エキスパート会員みなさま、防災エキスパート活動に、ご尽力・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

事務局本部では、これまで皆さま方が講演会等で説明頂いた資料につきまして、幅広く活用したく、NEXCO社員、グループ社員へ、記録として伝承していきたいと考えています。

つきましては、皆さま方が講演等に使用されました資料につきまして、ご提供頂きたいお願い致します。

頂きました資料に関しましては、会員専用ページに掲示し、全国の会員の他、NEXCO・グループ社員に共有し、防災意識の向上に役立てて参ります。

《資料提出先》

東京都港区虎ノ門2-3-17 虎ノ門2丁目タワー10階

高速道路調査会

防災エキスパート事務局本部

E-mail: bousaiaex@express-highway.or.jp

編集後記

令和6年1月の能登半島地震から早1年が経ちました。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、復興支援にご尽力されている方々に深く敬意を表します。

そして一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今号は、能登半島地震の被災地ボランティアとして、エンジ名古屋の社員が昨年12月に参加いただいた現地活

動状況を掲載しました。

参加者のアンケートでは、全員が「参加して良かった」「次回も参加したい」という結果でした。

活動された際の意見も掲載していますので、防災意識を高めたり、被災時の支援活動や防災訓練の参考にさせていただければ幸いです。
(事務局本部)

- ・災害時の支援活動も、平時の活動と交流があればこそ！！
- ・基本点検、技術伝承、防災訓練等の交流活動から！！